

## 木造鳥居型ラーメン構法活用推進協議会 設立趣意書

～ “新たな木造純ラーメン構法” の普及・活用を推進し、持続可能な  
魅力ある建築・まちづくりと国産木材の利用促進に寄与します。～

私たち日本の国民は、東日本大震災という未曾有の悲惨な大災害を経験し、それを教訓として国土、社会、生活、産業などのあり方を的確に見直し、安全・安心、持続可能で魅力ある国・地域づくりの推進を希求しています。

建築・まちづくりにおいては、大地震等の災害対策を強化し、集まり住まう環境や支えあうコミュニティづくりを進め、地球温暖化の防止や資源循環型の社会づくりに努めると同時に、地域社会・産業の活力を高めることが重要な課題となっています。また、高齢化や人手不足の中でこれらの諸課題に対処するためには、衆知を集め、技術革新を加速し、知識・情報集約型の産業を育てることが不可欠と言えます。

国内の豊富な木材資源を活用した建築・まちづくりを推進することは、これらの諸課題に対応する本質的な解決策として位置づけられ、国や地方はこの観点から長期的・重点的な政策テーマとして取り組んでいるところです。

そうした中、木造建築分野の現状をみると、木材加工の機械化・接合金物化・集成材化等、個々の要素的技術は顕著に進歩しています。しかし、その反面、全体を俯瞰すると、木造の根幹的な工法や国産木材の製材から建設に至る一連のプロダクト方式は、旧来の経験依存や労働集約的な形態に止まっている傾向がみられます。このため、木材市場グローバル化、生産加工や建築施工をめぐる雇用環境の激変、技能工の減少等の影響を受け、建築における国産木材の需要が縮小し、小手先の対応では需要の回復が困難な状況です。

私たち発起人は、この基本的問題に適切に対処するには、ベースとなる建築工法を知識・情報集約型のスマートでシステムティックな方式へ高めること、川上（木材生産加工）から川下（木造建築ストックの利用・再生）まで、持続的で高い付加価値を生む木造建築技術の普及を図ることが極めて重要と考えています。

「木造鳥居型ラーメン構法」は、シンプルな定型木材によって強靱な基本ユニットを形成し、容易に組み合せられる“レゴ型の建築創作システム”であり、様々なメリットを有し、川上から川下まで早期導入しやすい新構法として注目されます。

私たちは、この卓抜な新構法の活用を推進し、優良な木造建築を、戸建・集合住宅をはじめサービス付き住宅、介護・療養施設、病院、学校、店舗・事務など様々な用途に広げることにより、木を生かした安全・快適で魅力ある住宅・まちづくり、国産木材の利用促進、健全で持続性ある森林育成、地域産業・雇用の活性化に寄与することを目指して本協議会を設立し、活動を展開します。

2013年6月

## 設立発起人 (2013年6月8日現在)

建築家・ライト建築事務所  
奈良県生駒市  
庄司 悦治

住田住宅産業株式会社 代表取締役  
岩手県気仙郡住田町  
佐々木一彦

株式会社西村工務店 代表取締役  
大阪市  
西村 浩

第1号・木造鳥居型住宅建築主  
兵庫県西宮市  
武田 恭典

技術士（建設部門）  
千葉県印西市  
黒須 良次

森林ジャーナリスト  
奈良県生駒市  
田中 淳夫